

診療局：内科《肺腫瘍内科》

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部 長	森山 あづさ
非常勤医師	倉田 宝保

—概要—

1997年9月10日新病院開院以降、肺癌をはじめ広く呼吸器疾患全般を専門に診療に当たり、2007年6月1日からは呼吸器科から肺腫瘍内科と診療科名を変更し、肺癌をはじめとする呼吸器(胸腔内)腫瘍疾患を専門に診療を続けてきた。

常勤医師は肺腫瘍内科 森山医師 一人となったが、他科の協力の下、気管支鏡検査、化学療法、放射線治療、手術などの腫瘍疾患への検査・診断および集学的治療を続けている。

2010年4月からは非常勤医師として近畿大学医学部から準教授の倉田宝保医師が勤務していたが、2012年4月からは関西医大枚方病院の呼吸器腫瘍科教授に就任された。引き続き当院の隔週木曜日午前の外来と午後の病棟を担当している。

また、2012年4月からは呼吸器内科の外来を近畿大学医学部から東本医師と久米医師、大阪大学医学部からは平田医師が寄付講座から非常勤医師として担当していただいております。今までの腫瘍中心の診療に加えて、肺気腫、呼吸器感染症、アレルギー疾患、間質肺炎等幅広い呼吸器内科診療が行えるようになった。

肺腫瘍内科外来日は、火曜日と金曜日は森山が担当し、木曜日午前には倉田医師が担当している。気管支鏡は、事前の外来受診をしていただいた上で、月曜日と木曜日の午後に行っている。

今年度末に常勤医師が気管支鏡指導医の資格を取得することができたため、当院の呼吸器関連施設を維持していく。

日本呼吸器関連施設

日本呼吸器内視鏡関連施設(気管支鏡)

—実績—

2015年4月～2016年3月

気管支鏡症例数	※例(透視下、内視のみ含め)
肺癌	
外来化学療法(非小細胞癌+小細胞癌) (化学療法同時放射線治療の化学療法を含む)	94例
入院化学療法新規導入	※例
症状緩和症例	※例
その他	※例
悪性胸膜中皮腫	※例
延入院患者数	49人

※諸事情により、2015年11月から新患者の対応および検査、入院を一時中止中。

—今年度の成果と反省点—

気管支鏡指導医を取得することができ、今後も呼吸器内視鏡関連施設の維持を継続していく。

人員確保を行うことが診療を継続するうえで重要と思われる。

—来年度への抱負—

肺癌症例の新患者受け入れ再開、および支持療法、症状緩和に対する治療を強化していく。